

会 議 録

会 議 名	令和2年度 総合教育会議	
開 催 日 時	令和3年3月24日(水) 午後1時15分から午後2時10分まで	
開 催 場 所	栄町役場5階第1会議室	
出 席 者 氏 名	委 員	岡田 正市 (栄町長) 藤ヶ崎 功 (栄町教育委員会教育長) 中島 宣行 (栄町教育委員会教育長職務代理者) 大久保 雅従 (栄町教育委員会委員) 弘海 千鶴 (栄町教育委員会委員) 石川 京子 (栄町教育委員会委員)
	職 員 職 氏 名 (事 務 局)	磯岡 和之 (栄町教育委員会教育総務課長) 由井 茂 (栄町教育委員会教育総務課課長補佐)
	(説 明 員)	鳥羽 英之 (栄町教育委員会学校教育課長) 五十嵐 修 (栄町教育委員会教育総務課主事)
	町 職 員	勝田 博之 (栄町教育委員会生涯学習課長)
欠 席 委 員 (者) 氏 名	なし	
会 議 日 程	議 題 1 G I G A スクールの構想における I C T 教育について	
会 議 の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 原則非公開 <input type="checkbox"/> 全部非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開	
会 議 を 公 開 し な い 理 由		
傍 聴 人 の 数	0 人	

会議等の内容(発言者、発言内容、会議等の経過、決定事項等)

<p>教育総務課長 (進行)</p>	<p>(開会)</p> <p>本日は大変お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただいまより、令和2年度第1回栄町総合教育会議を開催させていただきます。 はじめに町長よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>町長</p>	<p>こんにちは。本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。 中島教育長職務代理者をはじめ、各委員のみなさまにおかれましては、日頃から栄町の教育行政の推進に多大なるご指導ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。 さて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教職員をはじめ児童生徒には、新しい生活様式ということで大変な学校生活をしていることと思います。早く終息することを願うばかりでございます。 そのような中、学校現場では、他にも様々な問題等があるかと思えます。本日は、今年度に整備を進めてきた、GIGAスクール構想におけるICT教育について現状を把握し、意見交換ができればと思います。</p>
<p>教育総務課長 (進行)</p>	<p>それでは、本日の議事に入らせていただきます。栄町総合教育会議運営要綱第5条第1項の規定により、町長が議長を務めることになっておりますが、同要綱の第5条第2項の規定により、議長である町長よりあらかじめ議事進行の指名を受けておりますので、引き続き、私、磯岡が務めます。 さっそくですが、議題1「GIGAスクール構想におけるICT教育について」学校教育課長より説明願います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>【説明】<紙面資料にて説明> 栄町教育委員会における今後のGIGAスクール構想について説明します。 1 これまでの経緯についてです。 国では、情報教育の充実とICT環境の整備について、平成28年8月31日付け「教育情報化の推進に対応した教育環境の整備充実について(通知)」の中で、「急速に情報化が進展する中で、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な『情報活用能力』を、各学校段階における教育課程全体を見渡したカリキュラム・マネジメントを通じて体系的に育むとともに、『アクティブ・ラーニング』の視点に立った学びを進める上で、ICT環境も含めた必要なインフラ環境の整備を図ることが重要である」とされています。 そして、平成30年7月12日付け、「第3期教育振興基本計画を踏まえた、新学習指導要領実施に向けての学校のICT環境整備の推進について(通知)」の中で、「平成32年(2020年)度から順次全面実施される新学習指導要領においては、『情報活用能力』を、言語能力、問題発見・解決能力等と同</p>

様に、『学習の基盤となる資質・能力』と位置付けるとともに、『各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る』こととし、「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018～2022年度)」に基づき、単年度1,805億円の地方財政措置が講じられることとなりました。

栄町教育委員会では、この国の基本方針に基づき、令和元年度に「ICT環境整備事業」として、タブレットパソコンの導入について予算化を行ったところです。

その後、国から令和元年12月に「GIGAスクール構想」で、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育・ICT環境の実現へ」といった内容で、「校内通信ネットワーク」と「1人1台端末」の整備が示されました。

これにより、栄町教育委員会でも、令和元年度の予算を令和2年度へ繰越し、令和4年度に向けた、整備を始めることとしました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の臨時休業が行われることとなり、1人1台端末の早急な導入と臨時休業等緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備が国から示され、地方創生臨時交付金を活用した、早急な整備が求められました。

栄町教育委員会でも、令和2年6月議会、8月臨時議会において、「オンライン学習環境整備事業」として、予算を計上し、ご可決いただき、年度内の「1人1台端末」の整備を行うとともに、緊急時に家庭でも使用できるWi-Fiルーター(経済的支援が必要な家庭向け)の導入を実施しました。

1人1台端末は、令和2年12月中に導入され、現在、各小中学校において、各校週1回程度のICT支援員による支援をいただきながら、授業等で活用いただいているところです。また、家庭でも使えるような設定を行い、今後、緊急時等においても各家庭と学校を結び、学習を行うことができるよう調整しています。

また、各校導入後の令和3年1月14日には、臨時教育委員会会議実施後に、教育委員の皆さんにタブレットパソコンの使い方とWi-Fi接続の仕方の体験、1月28日には、同じく教育委員会会議実施後に、プログラミング体験とオンライン学習環境の実際について、ご確認いただいたところです。

2 栄町教育委員会のICT教育の今後の展望についてです。

栄町教育委員会では、令和2年度「栄町学校教育指導の充実」の中で、プログラミング教育について、「プログラミング的思考を育むプログラミング教育の充実・プログラミングの働き等に関する『気付き』やコンピュータを生かそうとする『態度』の育成を図るとともに、各教科の学びをより確実なものとしていくことができるよう取り組む」また、情報モラル教育として、「情報モラルの向上に向けた取組の充実、道徳や各教科等の年間指導計画に基づいた系統的な情報モラル教育の実施、家庭、そして、地域と連携した情報モラル教育を図るための情報提供と啓発事業の実施」を示しています。

現行の学習指導要領では、「情報活用能力」を、「言語能力、問題発見・解決能力等と同様に、『学習の基盤となる資質・能力』と位置付けるとともに、『各

学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る』こととしており、栄町教育委員会でも、これに沿った取組を実施していくこととしています。

今後は、情報活用能力を言語能力とともに学習の基盤となる資質の能力として位置付け、様々な学習場面で、タブレットパソコンを活用することにより、情報活用能力を身につけさせていく。また、一人一人の興味関心に応じ、意欲を高め、深められる学習、児童生徒同士が関わり、共に学び合う学習ができるようにし、これらを通じて、総合的に児童生徒の生きる力の育成に結びつけていくものとします。

3 具体的な取組の方向性についてです。

各校に整備された1人1台タブレットパソコンを様々な学習に活用することにより、児童生徒が自在にタブレットパソコンを扱うことができるようにしていきます。また、端末の活用をとおして、以下の情報活用能力を養う。

A 情報活用の実践力としては、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用。必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造。受け手の状況などを踏まえた発信・伝達があります。

B 情報の科学的な理解としては、情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解。情報を適切に扱い、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解があります。

C 情報社会に参画する態度としては、社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解。情報モラルの必要性や情報に対する責任。望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度があります。

緊急時においては、家庭へ貸し出して、オンライン環境を活用し、健康観察などの状況確認を行ったり、オンライン学習、動画配信などを行ったりすることにより、家庭でも、安心して学習に取り組むことができるようにしていきます。

また、今後は平常時においても、ラインズ等導入した学習支援ソフトを活用しながら、個々の学習課題などに取り組むことができるようにしていきます。

教育総務課長
(進行)

ありがとうございました。

続きまして、教育総務課の五十嵐主事より各学校で取り組んでいるタブレットパソコンによる学習の取組状況を説明します。

教育総務課主
事

【説明】 < 30枚の映像を大型テレビに映し出して説明 >

他市町に先がける形で、栄町の児童生徒に1人1台のタブレットパソコンが12月に配当され、全員分のタブレットパソコンをセットアップして、随時1月下旬より活用することができるようになりました。

私の方からは、そのタブレットパソコンが各学校でどのように活用されているかの一例を映像により紹介します。

① 1年生の算数科において、授業後半で習熟を図るためにドリル問題を解いているところです。子供たちは、タッチペンを用いて答えを書き込みます。解いた問題は、個人データとして積み重ねられていきます。

② ドリル問題に数字を書き込むこともできます。担任は、子供たち全員分が

映っている教師用タブレットパソコンを使って、その場で子供たち一人一人が映った画面に赤丸をつけていきます。

③ 1年生の図画工作科でお絵かきソフトを活用して、「虹」を描いているところです。筆の太さや色が自由に選べて、消すこともできます。

④ パソコン室の教師用パソコンの画面です。全員の作品を確認したり、子供たちの作品を子供たちのタブレットパソコンに転送して鑑賞し合ったりすることができます。

⑤ 2年生の音楽科で、コロナ禍の関係で鍵盤ハーモニカを使わない代わりに、音楽ソフトを使って、画面の鍵盤を使って演奏練習をしているところです。

⑥ この音楽ソフトでは、簡単な曲作りもできます。

⑦ 3年生の理科「動物のすみか調べ」の学習で、ヤフーキッズのインターネットを利用して、調べているところです。

⑧ 3年生は、まだローマ字が習いたてなので、苦手な子供はヤフーキッズの50音のひらがな文字入力を使って検索しています。

⑨ 4年生の社会科「水はどこから」の学習で、水のエコについて、画像を取り込みながらデジタルスクールノートを使って、学習新聞にまとめているところです。

⑩ 5年生の理科「天気の変化」の学習で、雲の動きや種類についてインターネットの動画や画像で調べているところです。

⑪ 5年生の総合的な学習の時間のプログラミング学習の様子です。教育委員さんには、1月の委員勉強会で体験していただいたものです。後ほど時間が許す限りで、岡田町長にも体験していただければと思います。

⑫ 同じ動きの規則性を見つけ、繰り返しの命令文を使って短いプログラミングをするように考えているところです。

⑬ 6年生の国語科の授業で、タブレットパソコンを必要に応じて、机の上に置き、活用しています。

⑭ 国語科では、意味調べをしたり、教科書のQRコードをタブレットパソコンのQRコードリーダーで読み取り、作者についての補足説明を見たり、説明文の内容に関連した画像や動画による補足説明を見たりできます。

⑮ 特別支援学級の授業で、「ビスケット」というフリーソフトを活用し、いろいろな絵を描いています。

⑯ その絵に動きを入れていくところです。眼鏡のようなデザインの枠の中にある右側の絵が左側の絵になるように、画面上で動きながら変化していきます。

⑰ パックマンのような口を開けた絵と閉じた絵を描いて、口を開けたり閉じたりしながら動くようにプログラミングしていきます。特別支援の児童の中には、先程のプログラミング学習がとても得意な児童がたくさんいます。

⑱ タブレットパソコンはドリルタイムでも活用しています。ラインズeライブラリアドバンスを活用して、習熟度に応じて自動構成された問題を解いています。

⑲ 学年及び教科ごとで選択式の問題を解き、自動的に丸つけが行われます。わからない時には、簡単なヒントも表示され、解いた問題は、個人データとしても保存されていきます。

⑳ 各学校で情報教育担当教諭を中心にして、タブレットパソコンを活用した校内授業研修会が行われています。

- ⑲様々なICT教育の研修会をとおして、学校全体で教職員のICT教育のスキルを高めていくように取り組んでいます。
- ⑳ICT支援員の木内さんです。授業支援で、タブレットパソコンの使い方を説明しているところです。資料などを活用して、子供たちにとってわかりやすく教えてくれています。
- ㉑実際に子供たちにタブレットパソコンの使い方を支援しているところです。
- ㉒コンピュータ室の授業風景です。この教室のタブレットパソコン収納庫に全員分のタブレットパソコンが充電及び施錠されて保管されています。
- ㉓理科室もWi-Fi環境が整っていて、タブレットパソコンを活用することができます。カメラ機能を使って観察したものを撮影して保存することもできます。
- ㉔図書室も同様にWi-Fi環境が整っていて、タブレットパソコンを活用して、インターネットでの調べ学習をすることができます。
- ㉕中学3年生の授業風景で、高校受験の前にライズeライブラリアドバンスを活用して、習熟度に応じて問題を解いているところです。
- ㉖理科「光の世界」のレンズの光の屈折についての問題を解いているところです。その場で丸つけがされて、すぐに答えの修正を行うことができ、個人データとしても蓄積されていきます。
- ㉗社会科の歴史の「中世の日本」についての問題を解いているところです。つまづきがあると繰り返し復習することができます。また、発展的な問題に取り組むこともできます。
- ㉘中学2年生の社会科の「日本のさまざまな地域」の特色について、教師が作成したワークシートに書き込んでいるところです。

以上、雑ばくな説明になりましたが、これで説明を終わりにさせていただきます。子供たちは1人1台担当されたマイタブレットパソコンを活用した学習が大好きで、集中して取り組んでいます。

学校教育課長

補足の説明をさせていただきます。先ほどプログラミング学習の授業の様子でこまをはめ込んでいる場面があったと思います。プログラミング的思考力を育むことについては、3月の議会でも議員さんから質問がありました。

なぜ、この学習がプログラミング的思考力を育むことになるかということ、コンピュータは約束として一つの命令で一つ動くことになっています。下に動くという命令をすると、このキャラクターが一つ下に動くこととなります。さらに下に動くという命令をすると、このキャラクターが一つ下に動くこととなります。これを組み合わせていくと、二つ動くということとなります。

一つの命令で一つ動くという論理的な思考に基づいて、組み合わせをすることでこのキャラクターは、複雑な動きができるようになることを学びます。

この学習活動では、子供たちは楽しく取り組みながら、プログラミング的思考力を育んでいくことに繋がっています。

一つの命令で一つ動くという論理的な思考は、実際にコンピュータの仕組みとして使われているものです。コンピュータの働き、プログラミングの働きをこの学習活動をとおして、学ぶということになります。

算数科でも同じように論理的思考を学びます。小学校段階では、基礎的な部分でのプログラミング学習及びプログラミング的思考を学ぶこととなります。

	<p>この学習で、一つ一つを組み立てながら、順序立てて考えていく力を育んでいくことになります。</p> <p>次に、内田洋行から派遣されているICT支援員の木内さんのことですが、今年の6月まで各学校を回りながら授業支援を続けていきます。7月以降については、木内さんが派遣されないので、五十嵐主事と会計年度職員として採用している原さんと各学校を回ってもらい、子供たちの授業支援をしてもらいます。4, 5, 6月中に、ICT支援員の木内さんに付いてノウハウを教えてください、7月以降も継続する形で子供たちの授業支援が行えるようにしていきたいと思っています。各学校へは、週一日ずつの配置となってしまいますが、その中で子供たちと教員への支援に回ってもらうことになります。</p> <p>ちなみに、原さんは国が行っているGIGAスクールサポーター制度による補助金を活用して勤務してもらっています。このGIGAスクールサポーターは、直接子供に関わって指導するものではないのですが、町会計年度職員のアシスタント教員として兼務することになっていますので、子供への授業支援も行ってもらうように考えています。今年は、子供たちに1人1台のタブレットパソコンが導入された年になりますので、タブレットパソコンが有効活用できるように子供たち及び教員への支援をしていきたいと考えています。</p>
教育総務課長 (進行)	<p>ありがとうございました。大変わかりやすい説明で、学校の状況や取組方が十分伝わってきたように感じます。</p> <p>では、ただいまの説明について何か質問等ございますか。</p>
石川委員	<p>タブレットパソコンでいろいろなツールを使っての学習についてよくわかりました。説明があった中で、一番心配に思ったことは、先生方への支援についてと子供がつまづいてしまった時の支援についてです。</p> <p>内田洋行から派遣された木内さんが6月まで来てくださるのは、とても心強いことです。7月以降は、GIGAスクールサポーターの原さんがアシスタント教員を兼務する形で支援を行うということですが、どこかの学校のアシスタント教員で配置されているものですか。</p>
学校教育課長	<p>原さんは、週5日勤務で各校を1日ずつ回るようになります。学校としては週1日の支援ということになりますが、全校には均等に回るようになります。</p>
石川委員	<p>ということは、栄町のアシスタント教員ということになりますか。</p>
学校教育課長	<p>そのとおりです。</p>
石川委員	<p>よくわかりました。とても心配な部分でしたので安心しました。今は、先生たちは、タブレットパソコンの指導で迷ったら、木内さんが週1回は学校に来てもらえるので聞けばよいですね。</p>
学校教育課長	<p>先日、町長にも説明をしたのですが、木内さんのようなICT支援員という立場で、子供たちや教職員の研修に対して支援できる人を国の予算でぜひ派遣してほしいということを国に要望しています。</p>

石川委員	<p>確か4校に1人、配置しなければならないということですね。</p>
学校教育課長	<p>現在は、4校に1人ということで、地方財政措置で国から予算がおりていますが、あくまでもそこに予算を使ってもよいよというもので、どこにその予算を使うかは各自治体に任されているもので、難しい部分ではあります。</p> <p>今は、国に対してICT支援員の配置としての補助金を出してもらえるように要望をしているところです。県に対しても同様の要望を出しているところです。</p>
石川委員	<p>それでなくても、先生方は、新しい取組でたくさん覚えることがでてきて、とても大変な思いをしているのではないかと心配です。その中でのICT支援員の存在は大きいものだと思います。</p> <p>国や県で補助金が出せないようであれば、難しいとは思いますが町で予算を増やして、人材がいればICT支援員の人数を増やすことはできないものですか。特にタブレットパソコンを活用した授業の動き出しの部分では、必要になると思います。</p>
教育長	<p>町には、学習支援員という人たちもいますので、そのような人たちをICT支援員の方に振り分けていくことも考えています。</p>
石川委員	<p>国の予算を活用することもよいと思いますが、町でも予算が出せるようになるとよいと思いました。</p>
教育長	<p>限られた町の予算にもなりますので、優先順位を考えて学校に職員を配置していくようになります。学校に配置している職員は介助員、学習支援員、事務補助員などがいますので、必要に応じてICT支援員に振り分けて配置していくということを学校教育課で考えているところです。</p>
石川委員	<p>学校によって差があっては困るし、同じ学校でも学年や学級によって差があっても困ると思います。保護者にとっては、とても気になる部分なので、ICT支援員は必要だと思います。</p>
大久保委員	<p>今は、コンピュータに詳しい人の中にもリモートなどで在宅勤務をしている人たちがいると思います。そのような人たちにボランティアとして学校に来てもらうことができればよいと思います。ただし、コンピュータ技術に詳しいことと、教育とがすべてが結びつくものではないと思いますが、ICT支援員と打合せをすることで、有効的な活用が図れればと思います。</p> <p>各学校では、学習ボランティアとして応募をかけて、お礼には茶菓等を出すようにして、ICT教育の支援をお願いできればよいと思います。</p> <p>また、学習ボランティアに参加した人たちにとっても、プラスになるような取組を考えてもらえればよいと思います。また、予算的にも節約になります。</p>
弘海委員	<p>私は実際にタブレットパソコンを使っている子供たちの意見を伝えていき</p>

	<p>いと思います。子供が中学3年生にいて、受験シーズンになってから1人1台のタブレットパソコンが配布されました。どのように使われているかを子供に聞いたところ、このタブレットパソコンを使い、受験に向けて、自分の苦手な学習について取り組むように指示され、使ってみたということです。</p> <p>使ってみての感想としては、とにかく学習ソフトが使いやすくて、自分の苦手な教科が英語科だとしたら、その中でさらに細かい部分の文法とか熟語とか自分の苦手な部分の問題を選んで取り組むことができます。内容もわかりやすいので、学習が進めやすくて楽しかったということでした。</p> <p>数学科も同様で、苦手な学習内容を選んで問題を解くことができるということです。また、問題に正解していくと習熟度に合わせる形で問題が出され、間違えたら既習問題が出されて、きちんと復習ができるようになっているということで、とても使いやすかったということです。</p> <p>今年の中学3年生は、昨年12月に導入されて年が明けた1月下旬から使いだしたので、本当に短い期間での使用になったので、もう少し早く使えるようになっていたら、学力はもっと向上したのではないかとっていました。</p> <p>タブレットパソコンを児童生徒一人一人に配布していただき、とても感謝しています。</p>
中島委員	<p>低学年児童への指導が難しいという話をよく聞きますが、タブレットパソコンでの学習で何か問題点などが出ていますか。</p>
教育総務課主事	<p>自分が見させてもらっている場面では、特に問題となっていることはありません。得意な子供がミニ先生として苦手な子供に教えたり、時間的に余裕をもって取り組めるようにしたりしていて、子供たちは楽しく授業に取り組んでいます。</p> <p>確かに家庭によって、普段からコンピュータをさわっている児童と、学校で初めてコンピュータをさわる児童がいるので、指導する時に進み具合の差が出てしまうことはあります。</p> <p>それでも、まだ低学年の学習内容で、それほど難しいことはないので、全員がそれなりにできるようになっています。</p> <p>また、児童の興味関心は高く、やりたくて仕方ないので、通常の授業より教師の指示を聞こうとしているようにも感じました。</p> <p>低学年の学級はICT支援員が来る時に授業を組むことが多くなっています。児童を指導する先生は、学級担任、ICT支援員、学習支援員などと複数になっているので、児童への支援はできています。</p> <p>低学年の学級担任に詳しく話を聞いているわけではないので、学級担任に話を聞けばこんなことが困っていますよと話をされるかもしれませんが。</p>
学校教育課長	<p>基本的には、先ほど見ていただいた、ラインズの学習ソフトなどは、文字入力をキーボードで打つのではなく、指やタッチペンを使って丸をつけたり、数字や文字を書きこんだりして、ノート感覚で学習を進めていくことができるようになっています。</p> <p>低学年で一番大変な課題としては、ひらがな文字入力、ローマ字入力などのキーボードを打つという文字入力だと思います。その部分はタブレットパソコ</p>

<p>石川委員</p>	<p>ンの画面でタッチすることで課題がクリアしやすくなっています。ノートパソコンと比べるとタブレットパソコンは、低学年児童にとって取り組みやすいものです。</p> <p>話を戻してしまいますが、大久保委員が話された学習ボランティアについてです。竜角寺台小学校では、地域協働本部が新しく立ち上げられ、今年度はコロナ禍の関係で活動はあまりできなくて、私自身も登録しただけの形になってしまいましたが、先週の20日に総会がはじめて開かれ、そこに出席してきました。</p> <p>竜角寺台小学校の地域協働本部は、部門として五つに分かれていて、読み聞かせとか見守り隊とかがあり、ICT支援と施設メンテナンスというのが新設されました。</p> <p>竜角寺台地区には、いろいろな人がいるので、このようなものに長けた方もいると思っていました。昨年の夏頃に学校が自治会に依頼をかけて、自治会で募集をかけたのですが、ICT支援に登録した方が誰もいなかったということです。今も探してはいるということです。ICT支援としての学校の要望内容は、ホームページの更新、先生方のICT教育に関する支援ということで募集していました。</p> <p>志のあるボランティアがいてくれればよいのですが、難しい状況であれば、行政サイドでICT支援員を配置できるとよいのかなと思います。</p>
<p>教育総務課長 (進行)</p>	<p>今は、ICT支援員は、内田洋行に委託ということで頼んでいますが、予算的には、かなり高額にはなってしまう。今後、次の段階に進んでいく時は、地域の方に支援をお願いしていくということでも進めていくしかないのかなと思います。ただ、今の話を聞いていくと、実際にICT支援をできる人がいないのか、できるけれどICTの支援をしていくことは大変だということに敬遠しているのか、よくわかりませんが、今後、機会を見つけて協議していくことになると思います。</p>
<p>石川委員</p>	<p>わくドラで子供たちの指導に来ている学生さんと同じ考えで、情報教育を学んでいる専門学校生や大学生に声をかけて、ICT教育の支援をしてもらおうようにお願いしてみるのはいかかでしょうか。</p> <p>この話は、竜角寺台小学校の校長先生にはしてきました。また、話をした以上は、自分でも探さなければいけないと思い、探してはいますが、見つかっていません。</p>
<p>教育総務課長 (進行)</p>	<p>ありがとうございます。今までの意見を踏まえて、教育委員会でも検討していこうと思います。</p>
<p>町長</p>	<p>コンピュータを活用した情報教育でも、得意な子供もいるが、不得手な子供もいて、これから格差がますます広がっていくのではないのでしょうか。地域による格差、学校間による格差、クラス間による格差も出てくるのではないのでしょうか。また、その格差を補うための方策はありますか。</p>

教育総務課主事	子供たち同士については、コンピュータの得意な子供が苦手な子供にミニ先生として教え合ったり、ICT支援員や学習支援員が補助支援に回っていたりして、格差が広がらないようにしています。
町長	ということは、通知表の成績がみんな5になるということですか。
教育総務課主事	それはないと思います。各教科の成績はタブレットパソコンの技能だけで評価されているのではなく、各教科の学習内容に応じた子供一人一人の習熟度によって成績評価がつけられています。
町長	タブレットパソコンを使いこなすことで、子供たちの学習能力が上がるということですよ。
教育総務課主事	児童生徒の学習能力は、確かに上がってくると思います。
町長	ということは、コンピュータの得意な子供と苦手な子供では、学力の格差は広がっていくということになるのではないのでしょうか。その格差の解消のための方策は何かありますか。
教育総務課主事	そのような部分は確かにあると思いますが、他の学習と比べるとタブレットパソコンの技能の差は大きくでないと思っています。また、タブレットパソコンにインストールされている学習ソフトは、個人の習熟度に応じた問題が出されるので、苦手な部分の復習もきちんとできていきます。そのことで子供たち一人一人の理解が着実に進んでいきます。
町長	普通の学習より、格差がつかないか心配です。学力を上げるために子供たち全員に1人1台のタブレットパソコンを持たせているので、きちんと成果がでてくるようにしてほしいです。 同じ先生が教えても、体育が好きとか音楽が好きとか、子供によって違ってくるので、全員がタブレットパソコンに興味を示すかどうか、今後の課題になってくると思います。
学校教育課長	今までの授業のように子供たち全員が黒板に一斉に向かって学習していくのとは違って、子供たち一人一人に合わせる学習が多くなってくるので、学習の入口としては入りやすくなると思います。 先ほど見ていただいた、ラインズの問題への取組やプログラミング教育についても、少しゲーム感覚になっているので子供たちには取っかかりやすくなっていると思います。
町長	高い予算を出して1人1台のタブレットパソコンを配置しているので、最終的には子供たち全員が格差なく学習能力を高めていってほしいです。 本来、栄町では今年度中に子供たち全員へ1人1台のタブレットパソコンを整備する予定はなく、来年度か再来年度に整備を終える予定であったと思います。

	<p>昨年のコロナ禍の関係で、急遽、国からの補助金がおりてきて、他の市町に先がける形で子供たち全員分の1人1台タブレットパソコンを整備することができました。</p>
教育総務課長	<p>2022年度に向けて5年計画で子供たち全員の1人1台タブレットパソコンを整備しようとしていたところでしたが、町の支援で栄町では、いち早く今年度中に整備を終えることができました。今後は、子供たちの学力差が広がらないように先生方には負担になってしまうかもしれませんが、がんばっていただくしかないと思います。</p>
町長	<p>今回導入したコンピュータシステムは、他の市町と同じものですか。</p>
教育長	<p>コンピュータによる校務支援システムは、印旛管内では白井市を除く他市町すべてを内田洋行が担当していて、同じような校務支援システムが導入されています。教職員の人事異動についても、同じ校務支援システムを使っているので、安心して異動できることとなります。</p>
町長	<p>異動先で、新たにはじめから校務支援システムの使い方を覚えるよりは、同じ校務支援システムを使えた方が仕事をスムーズに進められると思います。 以前は、教職員の給与の中の地域調整手当が印旛管内でも差があって、栄町は地域調整手当が低くて、他市町から栄町への異動を希望しないということがありました。</p>
教育長	<p>今は、教職員給与に地域調整手当はなくなりましたが、以前は確かに地域調整手当の格差がありました。</p>
町長	<p>ぜひとも、コロナ禍が収束したら、学校を訪問して、どのようにタブレットパソコンを活用して授業をしているか視察に行かせてもらいたいです。</p>
教育総務課長	<p>まだまだ議論をしていきたいところですが、会議の予定時間が過ぎてしまいましたので、他に何も無いようでしたら、本日の議題につきましては、全て終了したいと思います。貴重なご意見等をいただき、ありがとうございました。 以上をもちまして、令和2度栄町総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。</p> <p>(閉会)</p>